

## 一般演題 8 O8-07

### 当院における高気圧酸素治療前安全確認方法の向上に関する取り組み

○三代英紀<sup>1)</sup> 居原照高<sup>1)</sup> 長野真唯<sup>1)</sup> 玉岡大知<sup>1)</sup>  
黒田 聰<sup>1)</sup> 宮田香菜子<sup>1)</sup> 藤野唯依加<sup>1)</sup> 石田朋行<sup>1)</sup>  
村上雅憲<sup>2)</sup>  
〔1) 国立病院機構 関門医療センター 医療機器管理室  
2) 国立病院機構 関門医療センター 心臓血管外科〕

#### 【はじめに】

高気圧酸素治療（HBO）室の適切な運用には、治療前の安全確認が重要である。近年、米国において HBO 装置使用中の火災事故が報告されており、事故の未然防止のためにも当学会が定める安全基準第 35 条および第 36 条<sup>1)</sup> の遵守が求められる。特に治療時の装置内への物品持ち込みに関する確認の徹底は、安全管理上極めて重要である。そこで、当院における治療前安全確認方法の向上に関する取り組みについて報告する。

#### 【経過】

当院では、昨年度まで、第 1 種装置 2 台を技士 1 名で運用していた。しかし、治療件数の増加に伴い業務が煩雑化したため、令和 6 年 4 月より技士 2 名体制とした。さらに、同年 12 月に第 1 種装置を 1 台増設し、現在は 3 台の装置を技士 2 名で運用している。

#### 【治療前安全確認方法の向上に向けた取り組み】

治療前の安全確認向上のための取り組みとして、既存ルールの徹底と治療技士の増員効果についての検討を行った。既存ルールの徹底は HBO 室と当該病棟が治療スケジュールを共有することや、入室時における持ち込み禁止物等の安全確認作業を徹底した。治療技士の増員効果についての検討は、増員により患者入室時業務の分担や、治療前ダブルチェックの導入が可能となった。特に技士同士での情報共有と再確認を目的としたタイムアウトの検討<sup>2)</sup> は、「HBO 患者申し送り書」を導入し、タイムアウトを実施する体制を整えることができた。また、運用を継続する中で「HBO 患者申し送り書」はタイムアウト以外にも、朝のカンファレンスや治療前の準備物確認チェックシートにも活用することができ、限られた時間の中で、確実なタイムアウトを実行するために無くてはならない様式のひとつとなっている。

#### 【結果・考察】

技士 2 名体制の導入により患者入室時業務の分担ができ、限られた患者入れ替え時間においても安全かつ確実に業務を遂行できるようになった。また、新たに導入したタイムアウトを契機に技士同士の情報共有と再確認が徹底され、

装置内への物品持ち込みに関する確認がさらに強化されたと考える。今後も安全管理の向上に向けた取り組みを継続していきたい。

#### 参考文献

- 1) 日本高気圧潜水医学会高気圧酸素治療の安全基準（2024 年 6 月 27 日改訂）
- 2) WHO 安全な手術のためのガイドライン 2009